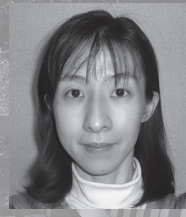


◀ 今ここで頑張っています ▶



より良い本作りを目指して

株式会社 東京化学同人 編集部 村上貴子 (新制48回)

私の勤務先である東京化学同人は、「マクマリー有機化学」「アトキンス物理化学」の訳本や「化学大辞典」を発行している会社です。総勢40名程度で、主に理学・工学・農学・薬学・医学などの教科書や辞典類を発行しています。

私は応用生物化学研究室で2003年3月に博士(工学)の学位取得後、約半年間、応用化学科助手をさせていただいた後、2003年秋にこの会社に就職しました。

入社以来、書籍編集を担当しています。著者(多くは大学や研究所の先生)が書かれた原稿を本にするまでが、主な仕事です(新聞・雑誌編集とは異なり、私自身が出版物となる文章を書く機会はありません)。今まで担当した本の多くは、複数の先生が専門の箇所を執筆し、編集委員が全体を統括する形式をとっています。

原稿が入ると、まず原稿の分量を概算し、編集方針に関する問題(例:初学者向けなのに難しすぎる、他所と大幅に重複している、等)がないかどうかを確認します。問題が感じられる場合には、編集委員の先生方に相談して指示を仰ぎます。本格的に製作に取りかかる段階に至れば、印刷所への指示を書き入れながら原稿を読むこととなります。多くの時間をかけることはできませんが、新しい知識に出会える楽しい作業とも言えます。この段階で疑問に思ったこと(文章が理解できない、図表と文章が一致しない等)はメモしておきます。ゲラが出来上がると著者に校正、編集委員に査読をお願いし、その際に疑問点もゲラに書き込んで質問します。その後いくつかの段階を経て本が出来上がります。本が出来上がるまでの間に、出版担当者は同じページを4~5段階は目にするようになります。

以前に分子細胞生物学の本を担当した時のことです。学部1~2年生向きの本であるはずなのに、全体的に難しすぎて私自身が理解できません。不安になり、意を決して上司に「私には内容がよくわからないのですが、このまま本になって大丈夫ですか?」と尋ねました。上司からは「村上さんがわかる本にしてください」という答えが返ってきました。

わかりやすく書いているつもりの先生方に、

「難しいのでわかりやすくしてください」とお願いするのは気が引けます。多くの先生方は快く応じてくださいますが、あれこれ聞き過ぎて怒らせてしまったこともあります。また、書き直してもらった文章がより難解になってしまうこともあります。しつこく聞くのは気が重いのですが、そんな時には「村上さんがわかる本に」を思い出して、疑問点はできるだけ解決していただくようお願いしています。

「学位を取得したことが直接仕事に生かされることはありますか?」と聞かれることがあります。「直接」となると答えは「いいえ」です。とても驚かれるのですが、これは全く悲観することではなく、化学が関与・貢献する分野がとても広いことを意味していると思っています。

私はもともと気長に待つことができない性格でした。大きな目標を思い描き、それに向かって気長に研究を続けるということができませんでした。いつしか「手にとって見るのできる、具体的な製品を作りたい」と思うようになりました。現在、この願望は十分満たされています。多くの本が、企画段階から2年程度で発行されるためです。

もう一つ、仕事に望んでいたことがあります。それは“製品の最初から最後までに関与すること”です。現在、こちらの願いもほぼ満たされています。入社して約9年、未だに自分で企画をしたことがないため真の意味での「最初から」とは言えませんが、執筆依頼から本としての完成までを担当しています。多くの場合、装丁(カバーデザイン)も担当者が行います。読者からの詳細な問い合わせにも担当者が応じます。

現在、私が入社して初めて担当した本の改訂版を担当しています。初版刊行から7年以上経ちますが、この間、教科書に選んで下さった先生方が子細に目を通され、また、多くの学生の方々がこの本で勉強されたことを想像すると、大変ありがたく思います。それと同時に、著者の次に多くの時間、各ページに目を通したであろう者としての責任を感じます。一人前にはほど遠いですが、この先もより良い本作りを目指していきたいと思っています。